

算数科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- ・過去3年間、第4学年時の結果を観ると、どの年度も目標値を上回っている。このことは、第3学年までの指導において学習内容が定着していることを表している。
- ・しかしながら、進級するごとに本校の平均正答率は目標値を下回るようになり、第6学年ではさらに全観点の目標値を下回っている。この傾向は過去3年間変わらない。
- ・習熟度別少人数指導を行っている効果が、進級するにつれて表れていない。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・文章問題の理解が難しく、加法・減法の区別がついていない児童が多い。	・多くの手順があるものは、混乱しやすく定着しにくい。 ・量感をつかむのに時間がかかる。 ・筆算等の単純な計算は、繰り返し練習することができる。	・問題文をよく読まずに問題解決をする児童が多く、意図を十分な把握することができず、自己解決に至らない児童がいた。	・四則演算の結果が平均値あたりで、特にあまりのあるわり算に苦手意識をもっている児童が多い。	・基礎は身に付いているが、応用問題になるとケアレスミスや凡ミスが目立つ。文章問題になると立式が難しい。	・小数の計算・速さ・平均・百分率が十分に身に付いていない。文章問題の立式・記述による説明が難しい。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・教科書の徹底活用 ・問題文をよく読み、キーワードとなる言葉を正しく理解させるようにする。	・教科書の徹底活用 ・具体物を多く用い、児童が実際に操作する機会を増やし理解につなげる。 ・「教えて考えさせる」を繰り返し知識の積み重ねに取り組む。	・教科書の徹底活用 ・絵や図を用いることで、計算方法へ理解を深めさせる。 ・計算の手順や順番を繰り返し確認できるようにする。	・教科書の徹底活用 ・50ます計算に繰り返し取り組み、計算力の向上を目指す。その際にますの数を10、15、25ますにすることで、児童の学力に合うように工夫する。 ・基礎的な問題に繰り返し取り組み、確実に解けるようにする。	・教科書の徹底活用 ・前時の復習の時間を取ってから授業をスタートするように計画を立てて行う。 ・習熟のために、問題をたくさん解かせる時間を設定する。	・教科書の徹底活用 ・導入部分で既習事項の復習を行い、授業で活用できるようにする。 ・小数の加減乗除、筆算などの習熟は、朝学習などを利用し、問題をたくさん解く時間を設定する。
思考・判断・表現	・おはじきやブロックなどの反具体物や図を用いて、数量の関係を捉えて、どの場面でも同じように加法や減法が用いられるようにする。	・計算方法などの思考を図や式に表せるように、ノート指導に取り組む。	・既習事項と関連付けて考えさせ、見通しをもって図や表から立式させる。 ・具体物や半具体物を操作することで、解決の手立てを考えさせるようにする。	・ノート指導では、自分自身で気付いたことや分かったことを吹き出しに表すなどして、視覚化できるようにする。	・ペア学習やグループ学習を取り入れて、自分の考えを説明したり、相手の言っている意味を解釈したりする時間を確保し、説明することへの抵抗感をなくしていく。	・ペア・グループ学習などで、自分の考えを説明したり、相手の考えを解釈したりする時間を設定する。 ・自分の考えを説明する際には、図・式・言葉を用いる習慣を付け、分かりやすい説明ができるように促していく。
主体的に学習に取り組む態度	・具体物や図などを活用して、問題を解決したりその結果を確かめたりする活動を経験させることで、自ら算数を学ぶ楽しさを実感させるようにする。	・日常生活の中で数学的思考に慣れ親しみ、児童が活用するよさを感じられるようにする。	・時計や巻き尺などの具体物を使った指導を取り入れることで、興味や関心を高める。 ・ペア学習や小グループでの意見交換や、考えを伝える学習を行い、自信を付けさせて発表できるようにする。	・単元末に振り返りを記述することで、児童が学習内容についてのよさについて実感できるようにする。	・授業の導入場面ではどの児童にも答えられるような問題から入って児童の意欲を引き出し、児童からのアイデアを生かした授業展開をしていく。	・自分の考えを書けるところまで書くことを習慣化する。机間指導で励ましの声をかけたり、ノートで励ましのコメントを書いたりして、意欲付けを行う。 ・ペア学習などで考えを伝え合い、自信を付けさせて発表できるようにする。

※太枠内は、特に重視する内容